

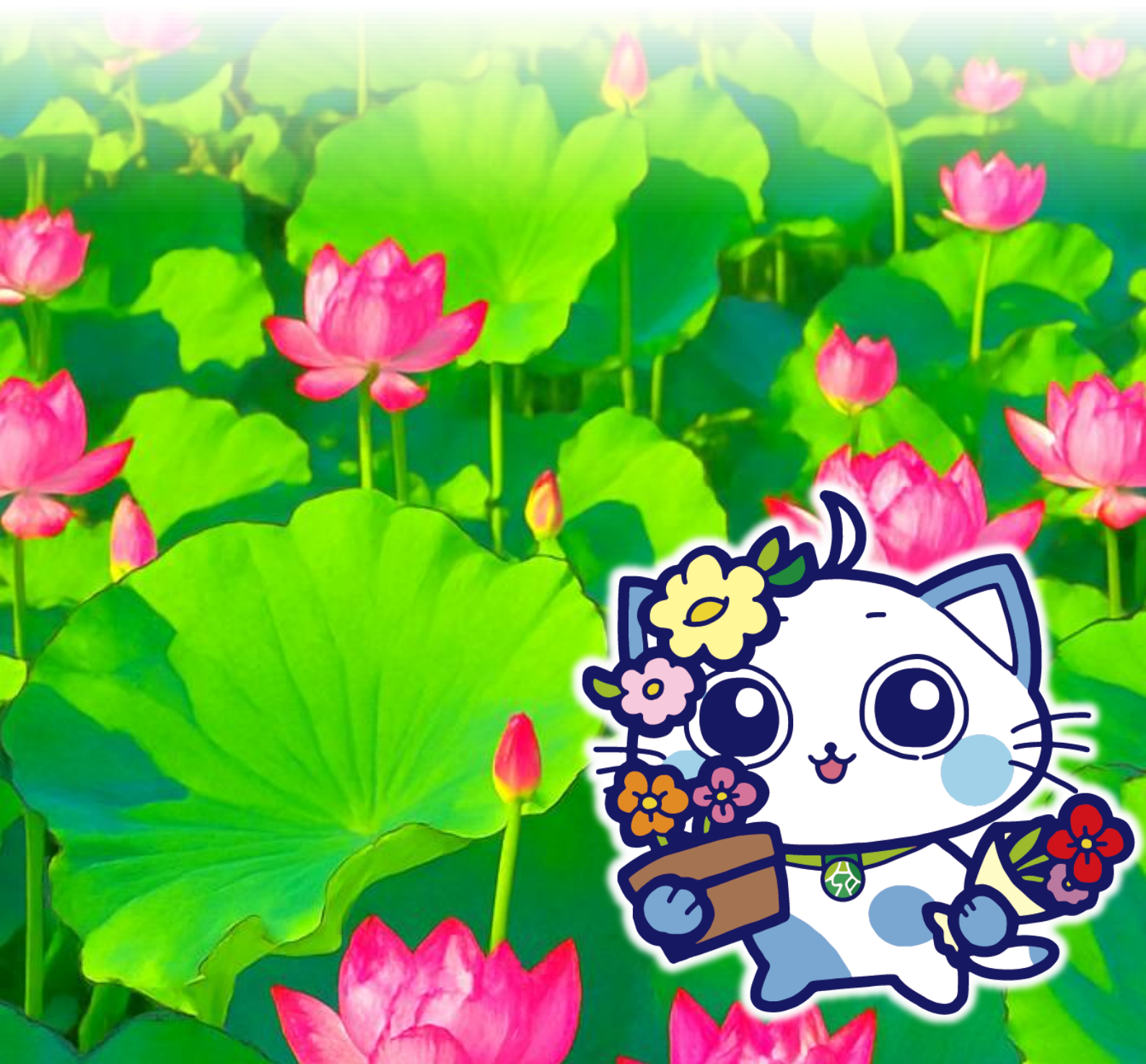
JA あいち海部 自己改革の成果

2021年度



2025年度

～地域に必要とされる JA を目指して～



食・農・くらしのそばに

JA あいち海部

自己改革の目的

ＪＡあいち海部は、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を実現するため、持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでいます。

令和7年度 自己改革実践の基本的考え方



令和6年度は組合員との対話に基づく自己改革実践サイクルの取り組みとして①～③の内容に取り組み、下記の通り実績を挙げました。

達成のための具体策		評価指標 (参考値)	R6年度 計 画	R6年度 実 績	R7年度 計 画	R7年度 実績 (9月末)
①	市場や実需者との契約取引の一定量確保	市場単価 + 3 %	全体出荷量の 30%	全体出荷量の 36.6%	全体出荷量の 30%	全体出荷量の 41.3%
		<トマト>	-	13.3%	25%	13.2%
		<ミニトマト>	20%	26.1%	20%	24.5%
		<レンコン>	85%	90.3%	85%	94.8%
②	実需と結びつけた播種前出荷契約米の数量確保	共計販売単価 + 6%	主食用米 4,000俵	主食用米 3,500俵	主食用米 3,500俵	主食用米 2,500俵
③	指定日引取及び園芸フェアの開催による生産コスト削減	指定日引取 1袋90円	指定日引取 16,000袋/年	指定日引取 16回 19,598袋	指定日引取 18,200袋/年	指定日引取 5,804袋/年
		持帰値引 1袋60円	園芸フェア 5,000袋/年	園芸フェア 21回 5,185袋	園芸フェア 15回/年	園芸フェア 10回/年

1

訪問活動や座談会を通じた「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握します。

2

農業者の売上増加・コスト低減につながる担い手目線の必要な取り組みについて、目標及び実践具体策の策定等とあわせて実践し、改革の目的である所得増大を実現するほか、地域の活性化にも取り組みます。

ア：担い手経営体や中核的担い手等を対象として、次のことに取り組みます。

- ①基幹品目を中心とした契約取引の一定量確保
- ②農地集積による効率的な生産基盤の整備
- ③収量増加・品質向上に向けた新品種の導入
- ④安定的な労働力確保による農業経営の維持・拡大

イ：中核的担い手や多様な担い手等を対象として、次のことに取り組みます。

- ①播種前出荷契約による契約の拡大
- ②計画的な資材の取りまとめの実施

ウ：その他として、次のことに取り組みます。

- ①指定日引取の取り組み
- ②土壌診断の実施
- ③農機レンタル事業の利用拡大

また、これらの取り組みにあたり、必要な農業資金の供給にも取り組みます。

3

改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることで、PDCAサイクルを回し、自己改革を着実に実践します。

自己改革を支える経営基盤の確立・強化の取り組み

達成のための具体策		R6年度 計 画	R6年度 実 績	R7年度 計 画	R7年度 実績 (9月末)
①	地域農業者への経営支援と農業制度資金を中心とした金融サービスの提供による農業資金新規融資額の伸長	メイン強化先訪問力バー率 (114先70.0%)	メイン強化先訪問力バー率 (114先75.4%)	メイン強化先訪問力バー率 (100先70.0%以上)	メイン強化先訪問力バー率 (100先48.0%)
②	3Q活動の実践による組合員・利用者への寄り添う活動	3Q活動件数全契約者の 33.3%以上	3Q活動件数全契約者の 33.2%実施 (16,814件)	あんしんチェック件数 17,000件以上	あんしんチェック件数 9,858件
③	フレコン出荷拡充による資材コストの低減	出荷量全体の 35%	出荷量全体の 46%	出荷量全体の 35%	年度末に集計

自己改革の実践に向けた組合員の意思反映

達成のための具体策		R6年度 計 画	R6年度 実 績	R7年度 計 画	R7年度 実績 (9月末)
①	部会組織等との意見・情報交換会	42回	60回	-	-
②	支部長会・座談会等による情報提供	78回	55回	-	-
③	組合員との対話および意見・情報交換会	-	-	130回	76回
④	組合員大学「みらいキャンパス」の開校	4回	4回	4回	2回
⑤	准組合員モニター会議の開催	3回	3回	3回	2回

※①および②については、令和7年度より③として計画値を設定しています。

組合員資格別の事業利用状況

正組合員である農業者へのサービスが疎かにならないよう、引き続きＪＡが地域になくてもはならないＪＡであり続けるため、組合員との徹底した対話を通じ、自己改革に継続して取り組んでまいります。

(単位：千円)

		信用事業		共済事業	購買事業
		貯 金	貸出金		
正組合員	金 額	181,434,978	15,927,896	383,759,007	3,647,199
	比 較	34%	19%	46%	69%
准組合員	金 額	176,549,727	63,014,417	226,673,405	618,016
	比 較	33%	75%	27%	12%
員 外	金 額	180,023,310	4,600,966	217,770,673	1,026,577
	比 較	33%	6%	27%	19%
合 計	金 額	538,008,015	83,543,279	828,203,084	5,291,793
	比 較	100%	100%	100%	100%

令和6年度末時点

次代へつなぐ
地域農業ビジョンの策定と実現

地域農業ビジョンとは、多種多様な担い手ニーズを捉え、農家所得の向上と魅力ある地域農業の実現のため、10年先を見据えて2018年に策定した地域農業の目指す姿です。環境の変化に柔軟に対応するため、組合員との対話を通じて新たな課題を抽出し、部門別に対策を検討するなど定期的に内容を見直ししながら実践しています。



これまでの取り組み経過（抜粋）	
令和3年度	訪問活動による課題の抽出
令和4年度	遊休農地・空きハウスのマッチング
令和5年度	収量向上に向けた実証実験（基幹4品目）をモデル農家で実施
令和6年度	組合員との対話を深めることでさらなる課題の掘り起こし
令和7年度	安定経営に向けた経営診断の実施と円滑な事業承継に向けた支援

（令和7年9月末時点）

組合員との徹底した議論による意思反映

組合員との徹底した対話を通じ、ご意見やご要望を事業計画やJA運営に反映しています。

徹底した議論の場とは…

生産組合長会や地区別座談会、生産部会・代表者会、営農受託部会青年部・女性部、地区運営委員会総代会など



	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
開催回数	176回	172回	192回	159回	76回
参加のべ人数	2,315人	2,389人	5,143人	2,068人	988人
組合員意見数	92件	26件	47件	4件	2件
JA回答数	91件	26件	42件	4件	3件

（令和7年9月末時点）

卒業生から
理事が誕生

組合員大学「みらいキャンパス」

幅広い見識と行動力を備えた組合員の次世代リーダー育成を目的に組合員大学「みらいキャンパス」を平成29年より毎年開催しています。常勤役員による講義やグループ討議、JA役職員との意見交換などを実施しています。令和2年6月の役員改選では、みらいキャンパスの卒業生から理事が誕生しました。



	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
参加人数	19名	14名	12名	14名	15名

准組合員モニター

年々増大する准組合員の意思をJA事業運営に反映させることを目的に、平成30年より「准組合員モニター」を開催しています。野菜ソムリエやJAあいち経済連の講師による講義、JA施設および生産者ほ場の見学などを通じて、地域農業応援への意識高揚を図るほかJA利用に関するアンケートを実施し、店舗の改善に繋がっています。



	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
参加人数	9名	11名	21名	12名	10名

担い手への総合的な支援

担い手担当と各部署が連携して出向く活動を行い経営診断や補助事業等の活用提案、ICT技術の導入支援、農業リスク診断などを実施しています。

さらに、無料職業紹介事業の推進や特定技能制度を活用した外国人材の雇用支援、新規就農支援など、生産基盤の維持拡大や農家所得向上に向けて様々な支援を行っています。また、各種の補助事業・交付金・補助金の申請も支援しています。



担い手担当による出向く活動 訪問結果				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
訪問回数	2,771回	2,962回	2,797回	2,125回

補助事業・交付金・補助金申請 支援結果（抜粋）		
	件数	金額
令和7年度あいち型産地パワーアップ事業	37	7,639万円
愛知県施設園芸用燃油価格高騰対策支援金	215	3,193万円

農業資金ニーズへの積極的な提案

令和3年度より農業融資担当を新設し、経済事業の担い手担当や園芸担当職員との情報連携や同行による農家訪問を通じて、組合員の幅広い農業資金へのニーズに対応する取り組みを推進しています。

経営の安定や改善、効率化、高度化などの組合員の多様な資金需要に的確に応えることで、農業所得の向上に取り組んでいます。



農業融資 新規実行額				
	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
実行額	3億5,522万円	4億5,153万円	3億6,025万円	3億7,421万円

農業無料職業紹介事業

組合員の労力軽減や所得向上を目的に、無料職業紹介事業を令和2年度より実施しています。対象の職種を農業に限定し、人手を求める組合員農家と農業で働きたい地域住民のマッチングを行っています。



	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成立数	40件	32件	22件	29件	13件

(令和7年9月末時点)

援農ボランティア

組合員農家が抱える労働力不足の課題解決に向けて令和4年度から開始し、准組合員から援農ボランティアを募集しています。また、スムーズな募集が行えるように、令和7年度より専用LINE上での募集を開始しました。内容としては、イチゴは摘果作業と出荷シーズン終了後の株切作業、花ハスは収穫と出荷作業を行い参加していただきました。



		令和6年度	令和7年度
参加人数	花ハス	5名	2名
	イチゴ	22名	69名

※参加人数は、開催日に対する参加者の合計となります。



募集用の専用LINE



レンタル農機の普及

家庭菜園を楽しむ方や定年帰農者などへの農業支援として、農機のレンタルを行っています。レンタルは1日単位から申し込みすることができ、操作方法の説明も行うため、畑仕事の効率化・省力化のためにご利用いただいています。



詳細は左記のQRコードよりご確認ください



※利用は組合員（正・准）に限りです

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸出実績	57回	53回	71回	41回	39回

(令和7年9月末時点)

フレコン出荷の拡充

J A あいち海部では、玄米出荷の省力化による資材コストの低減を目的に、30kg用紙袋からフレコンへの移行を進めています。令和4年度から試験的に導入を行い、物流に対する合理化を促進させながら運送業界で時間外労働の上限規制にも対応できるように、販売先との細かな調整を重ねながら選ばれる産地を目指して取り組みを続けていきます。



	令和6年度実績	令和7年度目標
フレコン出荷拡充による資材コストの低減	出荷量全体の46%	出荷量全体の35%

SNSを活用した情報発信

地域農業やJAへの理解促進を図るため、YouTubeやLINE、InstagramなどのSNSを活用し、直売所のセール情報や管内の旬な農産物の紹介、剪定作業や栽培方法など幅広い世代へ情報を発信しています。

インスタ

JAあいち海部(あいち海部農業協同組合)
664 2,210 468
投稿 フォロワー フォロー中

農協
こんにちは！JAあいち海部の広報大使あまにゃんです！
JAあいち海部は愛知県の西部に位置し、お...
さらに表示
@www.ja-aichima.com/、他4件

フォロー メッセージ 連絡先

フォロワー 2,000名突破

菜々耕房 A-COOP...

LINE

JAあいち海部
自動で返信しています
あまいる9月号を配信しました
さらに今月も午後からお得なクーポンをプレゼント

新鮮・安全・安心な産品をはじめ、たくさんの商品を取り揃えて、皆さまのご来店をお待ちしております！

広報誌のチャレンジクイズの応募はこちら！
<https://ws.formzu.net/fgen/S83044519/>
あまいる「今月のプ...」
あまいる9月号応募ポ...

ホームぺージ 公式SNS
農業カレンダー ポイントカード
News 店舗からのお知らせ 相談窓口等 オンライン講座 クーポン

メニュー

94万回再生突破

JAあいち海部 オンライン農業塾
柿の木の剪定



JAあいち海部 公式SNS

YouTube

LINE

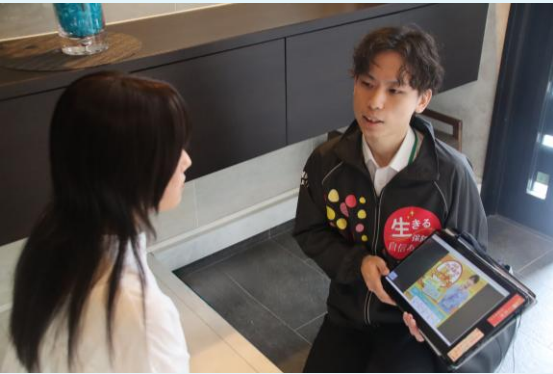
Instagram

	登録者数
YouTube	10,222名
LINE	8,553名
Instagram	2,281名

(令和7年9月末時点)

3Q活動の実践による寄り添う活動

共済事業では、組合員・利用者とのつながり強化や満足度の向上と保障の充足を目指して継続的な訪問活動を行っています。職員が契約者と面談して、けがや病気、建物の損害等の請求漏れの確認や結婚・出産といった環境の変化について何う「3Q活動」と、現在加入している保障内容について確認する「あんしんチェック」に取り組んでおり、全契約者に対して一定の目標値を設定し、渉外担当者が中心となって積極的な活動を行っています。



	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
訪問活動実績	12,912件	11,448件	13,274件	16,814件	9,858件

(令和7年9月末時点)

気軽に農業を体験できる貸し農園事業

農業従事者以外の方々に向けて、一定区画に区切られた農地の貸出を行っています。気軽に農業を体験したい方や、定年退職後の健康維持や趣味で農業を始めてみたいと考えている方に最適です。

※区画に空きが発生した場合は、当JAのホームページにて募集のお知らせを掲載いたしますので、ご確認ください。



JAあいち海部農園 七宝
あま市七宝町桂弥勒24番地
(あま市七宝グラウンド東)



JAあいち海部農園 甚目寺
あま市新居屋高畑9番地
(甚目寺郵便局西)

組合員に寄り添う相談窓口

当JAでは、営農主幹による農業に関する様々な営農相談や指導を行っています。また、農地や就農に対する相談に加え、不動産・相続や介護などに関する相談も受け付けており、各種相談会などの開催もしております。組合員の皆さまが抱える問題の解決に向けてサポートをいたしますので、お困りの際はぜひご相談ください。



各種相談に関する窓口や詳細につきましては、右記のQRコードよりご確認ください。

相談窓口

相談窓口

レンコン

新品種導入に向けた優良品種の試験栽培を実施し、時期や収穫方法ごとに適した品種を選定・普及することで単収増加を目指しています。生産者の労力軽減による生産体制の確立と、共同選果による品質の高位平準化、一元集荷による流通の合理化を目的に稼働・運営してきたれんこんセンターの選果機を令和5年8月に27年ぶりに改修し、選果処理能力を向上させました。また、洗い機の導入による販路拡大や安定した販売を行えるように**海外への輸出に組み込み、更なる販売力強化を図っています。**

販路拡大に向けて海外へ輸出
需要期以外でも販売できる体制を構築！

令和5年8月
選果機改修



これまでの取り組み

令和5年度	・れんこんセンター 選果機改修
令和6年度	・海外への輸出を開始
令和7年度	・れんこんセンター 洗い機導入 ・ドローンを活用した肥料散布（追肥）を開始

令和6年度実績



栽培面積	141.7 ha
販売金額	7.6 億円

イチゴ

新品種ブランド「愛きらり」を出荷開始
産地の活性化とブランド力向上へ！

あまイチゴ組合は平成29年に4組織が合併して誕生しました。同年にはイチゴセンターも竣工し、一元集荷・配荷の体制を確立しました。また、収量増加・品質向上を目的にICT研究会を設立し、炭酸ガス濃度や湿度など環境制御技術を整理したことで、6年間で単収を44%増加させるなど、農家所得の向上を実現しています。**令和5年度には、愛知県産の新品種ブランド「愛きらり」の出荷を県下で一番早く開始**しました。「愛きらり」は果実が濃い赤色かつ大粒であり、糖度も高く厳冬期の収量も多いのが特徴であるため、高い収益性が期待されています。



新品種
出荷開始

これまでの取り組み

令和3年度	・いちご新規就農支援事業スタート
令和4年度	・いちご道場 第1期生研修開始
令和5年度	・新品種ブランド「愛きらり」出荷開始
令和6年度	・いちご道場 第1期生就農開始 ・いちご道場 第2期生研修開始

令和6年度実績

栽培面積	13.2 ha
販売金額	8.2 億円



トマト

市場実需者や消費者のニーズに合わせ
様々な出荷規格やパッケージを導入！

トマトセンターでは令和元年に選果精度の向上と有利販売を目的に選果機ライン更新工事を行いました。自動箱詰め口ボ等による省力化や高精度カメラによる選別を導入したことで、**A品率向上（平成30年度18.9%→令和6年度33.0%）**並びに高位平準化が実現し、農家所得の増加に繋がっています。販売面では、トマトの色や形に応じた最適な市場出荷を行うために様々な出荷基準を設け新たな規格やパッケージを戦略的に導入し、消費者のニーズにきめ細かく対応することで売場の確保や販路拡大、契約取引の増加に取り組み、販売力強化を図っています。



これまでの取り組み

令和元年度	・トマトセンター選果機更新
令和2年度	・セブン-イレブンのミックスサンドに使用
令和4年度	・AIカメラによる収量予測実証実験開始 ・若手の会の発足により品質と収量向上に向けた勉強会を継続実施

令和6年度実績



栽培面積	15.8 ha
販売金額	7.9 億円

お米

南部カントリーエレベーター増強工事完了！
地域から必要とされる共同乾燥施設の運営へ

水田農業の生産振興と消費者および実需者から求められる良質な米づくりに向け、**成長戦略として令和4年に南部カントリープラント増強工事**を行いました。組合員のニーズに柔軟に対応しながら、地域に必要とされる共同利用施設の運営に取り組みむとともに、農地中間管理機構と連携して担い手への農地の集積・集約を進めています。また、実需と結びつけた播種前出荷契約米の数量確保やフレコン出荷拡充による資材コストの低減、新品種の導入および普及拡大に取り組み、県下有数の水田地帯として更なる産地振興を目指します。



新米出荷
県下最速

これまでの取り組み

令和4年度	・南部カントリープラント増強工事竣工 ・玄米30kg袋に加えて白米10kg袋の保有米新設（南部地区）
令和5年度	・JAなごやとの施設利用の体制を整備

令和6年度実績

農地中間管理機構 新規貸付面積	186 ha
販売金額	21.5 億円





食・農・くらしのそばに

JAあいち海部

<https://www.ja-aichiamama.com/>



発行／あいち海部農業協同組合 編集／企画部
〒496-0876 愛知県津島市大縄町9丁目63番地
TEL:0567-28-6760 FAX: 0567-28-6655
自己改革の成果 (Vol.4) 2025年12月発刊



当JAのHPはコチラから